

本縣統計協會總會

十四年度豫算其他を議決し 川崎末吉氏を顧問に推薦す

三月三日縣廳内に開催

縣統計協會昭和十四年度總會並に評議員會は三月三日午前十一時十分から縣參事會室に開催、久保田會長、大月副會長以下幹事列席、出席者は

▲支部長 那珂郡大内義比、多賀郡宮田厚、鹿島郡酒井守衛、行方郡小貫三郎、稻敷郡鴻巣清、筑波郡片山寛一、眞壁郡澤邊元信、結城郡小篠雄二郎、猿島郡遠藤弘、北相馬郡、新井芳之助、水戸市長中崎俊秀

▲評議員 那珂郡佐野村長清水廣之介、久慈郡賀美村長佐川忠、行方郡麻生町長箕輪喜平、北相馬郡内守谷村長新井芳之助

諸氏で、久保田會長開會を宣し、大月副會長から提出議案の説明をなし、評議員の改選は久保田會長の指名により

東茨城郡山根村長粉川幸之介△那珂郡佐野村長清水廣之介△久慈郡賀美村長佐川忠△行方郡麻生町長箕輪喜平△新治郡土浦町長萩谷徳一△北相馬郡内守谷村長新井芳之助△眞壁郡關本町長池田穰

以上諸氏に決定、前副會長川崎末吉氏が多年本縣統計界の爲貢獻したる所からさるため顧問に推薦する件を可決し、同氏に對し久保田會長から記念品を贈呈し、其の他の提出議案は逐次審

選抜視察せしめ豫期の効果を收めたり

東茨城郡磯濱町書記 河上 秀雄
西茨城郡安戸町助役 友部 勝雄
那珂郡山方村書記 根本 孫次
久慈郡大子町書記 皆吉 賛
行方郡太田村書記 萩原 兵憲
稻敷郡那柴村書記 松尾貞三郎
新治郡山ノ莊村書記 勝村新次郎
眞壁郡關本町書記 横塚 良助
結城郡西豊田村書記 飯村貞次郎
猿島郡岡郷村書記 山中森三郎
北相馬郡内守谷村書記 兼子 作治

一、統計思想普及

統計思想普及徹底を圖る爲縣より活動映寫機の貸付を受け本會のフィルムと他より借受けたるものに依り映畫講演會を開催したり

開催町村左の如し

△十月二十三日行方郡津知村△十月二十八日筑波郡三島村△十一月四日稻敷郡高田村△十一月十四日新治郡九重村

一、統計事務の實地指導

統計調査の適正と單位觀察の正確を期す

る目的を以て縣と相呼應し調査員會、研究会に職員を派遣し實地指導に努めたり

本期に於ける指導箇所二十五ヶ町村なり

一、統計事務成績者の表彰

統計調査に關し特に成績顯著なる左記三十二名を支部長の推薦に依り表彰することとに決定去る二月十一日の佳節に之を發表し郡支部總會の際傳達することとせり
町村書記七名統計調査員二十五名(氏名略す)

一、郡支部助成金の交付

統計協會郡支部助成交付金を昭和十二年度より交付することとなりたるも本會の財政上餘裕なき爲會議費として町村數に按分して若干宛を郡支部に交付せり

一、統計調査員死亡者に弔慰料の贈呈

統計調査員にして在職中死亡せる者に對し弔詞と共に若干の弔慰金を昭和十二年度より贈呈することとなりたるも本期に於ける人員十四名に達す

一、總裁の更迭

本會總裁松間茂氏は昭和十四年一月十一日内務省土木局長に榮轉せられたるに付

議の結果滿場一致で議案全部を可決確定し午前十一時三十五分閉會した。議決された十四年度豫算及び其の他の議案内容は左の如くである。

十三年度庶務報告

一、茨城統計の刊行

機關雜誌茨城統計は昭和十年一月創刊號刊行以來第五卷第二十五號に及び毎回會員は勿論其の他購讀者に配本し其の一回の發行部數四千五百部に及ぶ

一、縣勢要覽等の出版及諸用紙の印刷

縣編纂に係る昭和十三年度刊行縣勢要覽の頒布に就き縣の承認を経て六百部を増刷し學校其の他頒布希望の向に有償にて配付したる外昭和十四年所要の統計報告用紙、統計調査員手簿、其の他統計調査諸用紙を印刷して孰れも有償にて配付したり

一、統計事務視察員の派遣

千葉縣下に於ける優良町村匝瑛郡八日市場町、安房郡大山村を選定し十月二十日二十一日、二十二日の三日間左記の者を

會則第七條に依り吉永時次氏總裁となりたり

一、會長の更迭

本會々長今松治郎氏は昭和十三年六月二十八日内務事務官に榮轉せられたるに付會則第七條に依り久保田峻氏會長となりたり

一、副會長の更迭

本會副會長川崎末吉氏は昭和十四年一月二十三日退職せられたるに付會則第七條に依り大月一郎氏副會長となりたり

一、顧問の異動

顧問左記の通異動あり

解 嘲

經濟部長 井上文 介氏
學務部長 山崎隆 義氏
庶務課長 大熊貞 邦氏
地方課長 鳥居 延氏
推 薦
經濟部長 高橋一 郎氏
學務部長 宮田爲 益氏
農林課長 松尾友 雄氏
地方課長 齋藤壽 夫氏

- ▲吉田、綠岡、河和田、長岡、上野合、白河、橋、小川、竹原、堅倉、川根、鯉淵、下中妻、渡里、飯富、石塚、西郷、岩船、澤山、大貫、計二五
- ▲西茨城 穴戸、岩間、南川根、大原、大池田、七倉、北山内、南山内、西山内、東那珂、北那珂、岩瀬、計一一
- ▲那珂 平磯、前渡、中野、勝田、川田、佐野、村松、石神、神崎、額田、菅谷、五臺、國田、薩郷、戸多、芳野、木崎、瓜連、靜、大場、上野、大宮、大賀、玉川、山方、檜澤、小瀬、野口、長倉、八里、計三〇
- ▲久慈 機初、世矢、幸久、佐竹、郡戸、久米、金郷、世喜、金砂、天下野、染和田、山田、譽田、河内、中里、賀美、小里、生瀬、宮川、黒澤、依上、佐原、大子、袋田、上小川、下小川、諸富野、太田、久慈、計二九
- ▲多賀 坂上、國分、河原子、鮎川、豊浦、楡形、松岡、高岡、南中郷、日高、華川、關南、大津、平湯、關本、計一五
- ▲鹿島 夏海、大谷、沼前、巴、徳宿、諏訪、鉾田、新宮、上島、白鳥、大同、中野、鹿島、高松、息栖、輕野、若松、矢田部、波崎、計一九
- ▲行方 麻生、香澄、潮來、大和、津澄、武田、秋津、立花、玉造、延方、計一〇

- ▲稻敷 江戸崎、安中、木原、君原、阿見、朝日、奥野、岡田、莖崎、牛久、馴柴、八原、柴崎、阿波、古渡、龍ヶ崎、大宮、生板、金江津 計一九
- ▲新治 眞鍋、上大津、佐賀、安飾、志士庫、高濱、田余、園部、懸瀨、荳穂、柿岡、小幡、小櫻、志筑、七會、都和、藤澤、榮、九重、東、計二〇
- ▲筑波 谷田部、久賀、眞瀨、島名、旭、上郷、吉沼、筑波、北條、小田、大穂、小野川、谷原、計一三
- ▲眞壁 養蠶、五所、伊讚、大田、關本、上妻、川西、下妻、大寶、黒子、嘉田生崎、村田、上野大、長讚、古里、紫尾、樺穂、雨引、眞壁、大國、新治、小栗、計二三
- ▲結城 絹川、江川、山川、中結城、名崎、安靜、菅原、下結城、豊岡、西豊田、宗道、石下、三妻、飯沼、水海道、計一五
- ▲猿島 新郷、勝鹿、岡郷、櫻井、香取、五霞、長田、八俣、幸島、猿島、森戸、生子菅、逆井山、七重、香掛、神大寅、岩井、七郷、中川、筑、長須、計二一
- ▲北相馬 菅生、守谷、取手、相馬、計四

- ▲東茨城 大場、上中妻、中妻、山根、小松、伊勢畑、坪、計七
- ▲西茨城 北川根、計一
- ▲那珂 柳河、鹽田、計二
- ▲久慈 坂本、東小澤、西小澤、高倉、佐都、計五
- ▲多賀 黒前、計一
- ▲鹿島 波野、豊郷、豊津、計三
- ▲行方 八代、津知、大生原、太田、要、現原、玉川、行方、小高、計一〇
- ▲稻敷 君賀、沼里、鳩崎、舟島、長戸、根本、太田、高田、伊崎、大須賀、浮島、長竿、源清田、十余島、本新島、計一五
- ▲新治 下大津、美並、牛渡、關川、玉川、瓦會、林、新治、斗利出、山ノ莊、栗原、三、計一二
- ▲筑波 小張、板橋、三島、谷井田、豊、十和、福岡、作岡、田水山、菅間、田井、葛城、高道祖、計一三
- ▲眞壁 谷貝、鳥羽、勝波、江、河内、中、竹島、河間、計七
- ▲結城 上山川、大形、岡田、大花羽、總上、豊加美、蠶飼、玉、豊田、五箇、大生、計一一
- ▲猿島 靜、弓馬田、飯島、計三

▲北相馬 坂手、内守谷、小絹、大井澤、大野、高野、高井、稻戸井、山王、寺原、井野、小文間、六郷、高須、川原代、北文間、文、布川、文間、東文間、計二〇

十四年度事業計畫

一、會報の發行
本年度に於ても機關雜誌茨城統計を隔月に發刊し統計主任及統計調査員をして閱讀せしめ事務の刷新改善に寄與せしむると共に其の他希望の向の購讀に應じ統計思想の普及に努めんとす

一、統計事務の實地指導
統計事務の向上を圖らんが爲市町村に於ける統計調査員會、研究會、協議會等開催の際職員を派遣し實際的指導を行はんとす

一、統計思想普及講演映畫會
隨時市町村に統計思想普及講演映畫會を開催し其の向上發展を期せんとす

一、統計功勞者の表彰
本會表彰内規に基き成績優良なる吏員並統計調査員を銓衡し表彰を行はんとす

一、内閣統計講習會講習生の派遣
統計職員向上の目的を以て内閣統計局に於て開催せらるる統計講習會に本會より補助金を交付して市町村吏員を派遣せんとす

一、統計事務優良町村視察員の派遣
統計事務優良町村を視察し以て自村の事務に比較し探長、補短の實を擧げしむるは事務の向上を圖る上に於て最も緊要なるを以て本年度に於ても本會より補助金を交付し統計事務視察員を派遣せんとす

一、郡支部事業費に對する補助
本會郡支部の發展助長を期せんが爲其の經費に對し補助するものとす

一、圖書、諸用紙の出版印刷
1 縣編纂に係る縣勢要覽を増刷し希望の向へ有償にて頒布せんとす
2 統計報告用紙其の他の印刷
統計報告用紙及其の他の調査諸用紙、統計調査員手簿を印刷の上有償にて希望の向へ配付せんとす

一、統計調査員に弔慰金贈呈
統計調査員にして在職中死亡せる者に對

十二年度協會決算

し弔慰金を贈呈するものとす

歳入	一金九千七百五拾四圓參拾七錢	歳入決算高
歳出	一金八千七百七拾貳圓四拾九錢	歳出決算高
八錢型年度繰越	金壹千貳百八拾壹圓八拾	
歳入	本年 決算額	本年 決算額
科 目	決算額	豫算=比 (△印、減)
▲第一會費	一、四七〇・〇〇	一、四三〇・〇〇 △
▲第一項會費	一、四七〇・〇〇	一、四三〇・〇〇 △
▲第一目分賦	一、四七〇・〇〇	一、四三〇・〇〇 △
▲第二會費	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第二項補助金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第一目補助金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第三會費	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第三項繰越金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第一項繰越金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第一目繰越金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第一項預金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第四項預金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第一項預金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第一項預金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
▲第一項預金	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇

第一目 預金	四〇〇	四〇〇	四〇〇
第二目 統計大	五〇〇	五〇〇	五〇〇
第三目 諸備給	一五〇	一五〇	一五〇
第四目 賞與	三〇〇	三〇〇	三〇〇
第五目 出版	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇
第六目 雜收入	九七・三	九七・三	九七・三
第七目 雜支出	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
合計	九、三五四・七	九、三五四・七	九、三五四・七

第五條 創除

本規則ハ昭和十四年度ヨリ之ヲ施行ス

規則統計大會基金積立規則(參考)

第一條 本會ハ本規程ノ定ムル處ニヨリ統計

大會基金ノ積立ヲナスモノトス

第二條 基金トシテ積立ツベキモノノ左ノ如シ

一、毎年度繰越金額ノ三分ノ一

二、指定セラレタル寄附金

第三條 本積立金ハ本會經理上必要アルトキハ一時使用シ得ベキモ其ノ年度内ニ於テ補

擴積立スルモノトス

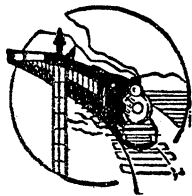
第四條 本會積立金ハ銀行預金トシ之ガ利ヲ圖ルモノトス

第五條 積立金ヨリ生ズル收入ハ之ヲ毎年度

統計調査員異動

(上は新任括弧内は舊)

昭和十三年十二月二十二日	筑波郡葛城村	沼尻 芳夫	(岡野 性一)
全十三年十二月廿一日	久慈郡西小澤村	富岡 廉	(富岡 鐵吉)
全十三年十二月十二日	那珂郡玉川村	鹽澤長次郎	(小田部 一男)
全十三年十二月三十一日	那珂郡芳野村	萩谷 彦一	(萩谷 利一)
全十三年十二月十六日	東茨城郡下中妻村	細谷 瑞穂	(細谷 重夫)
全十四年一月十九日	多賀郡磯原町	大津 正男	(根本治左衛門)
全十四年一月十五日	那珂郡前渡村	金川 東平	(酒井 泰三)
全十四年一月二十一日	結城郡水海道町	永井 午次	(大谷 光雄)
全十四年一月十六日	櫻井 啓壽	櫻井 啓壽	(櫻井 誠一)
全十四年一月十四日	眞壁郡谷貝村	糸井 五平	(箱守 平治)
全十四年一月三十一日	多賀郡日高村	藤田 好	(藤田 賢)
全十四年二月七日	行方郡延方村	永山 傳次	(志賀 尙)
全十四年二月十五日	行方郡手賀村	理崎 清一	(堀田 惣作)



各地統計雑信

町河上書記、大貫町佐藤書記

久慈郡南部支會統計事務研究会

久慈郡南部支會統計事務研究会は去る二月二十二日、二十三日の兩日久慈町役場樓上に於て開催され、縣より郡擔任の高島屬及土木課の虎口屬が出席した。午前十時荒川久慈町長の開會挨拶あり、續いて高島屬より統計の重要性に就て説明したる後縣提出の議案に付指示を了したる後虎口屬より土木統計事務に付説明あり、終つて高島屬更に統計に關する各種注意事項を説明し質疑應答をなし散會した。出席者左の如し

町村長會(小祝幹事)、久慈(荒川町長、宇佐美助役、五來書記)、坂本(大内書記)世矢(江幡書記)、機初(大島書記)、譽田(楠書記)河内(鈴木書記)、久米(富永書記)、那戸(助川書記)、佐竹(岡田書記)西小澤(高野書記)、幸久(岡崎書記)

者左の通り

△縣小泉屬△東茨城郡、粉川支部長、江橋幹事△町村、上大野村横須賀助役、下大野村平戸書記、稻荷村飯島書記、大場村飛田書記、酒門村坂場書記、石崎村飛田書記、吉田村皆川書記、綠岡村町井書記、河和田村丸山助役、高食書記、上中妻村藤地書記、上野合村田家書記、白河村郡司書記、橋村林書記、小川町高野書記、竹原村大貫書記、堅倉村加納書記、川根村道川書記、鯉淵村大島書記、下中妻村谷津書記、中妻村中山書記、渡里村鈴木書記、飯富村安島書記、山根村南都書記、石塚町大越書記、小松村綿引書記西鄉村鯉淵書記、岩船村富田書記、澤山村蓮田書記、伊勢畑村阿久津書記、磯濱

東茨城郡支部總會

統計協會東茨城郡支部總會並に事務研究会は二月九日東茨城郡町村長會樓上に開催、縣より小泉屬が出席した。午前十時三十分開會、粉川支部長の總會開催の挨拶の後、昭和十四年度茨城縣統計協會東茨城郡支部歳入歳出豫算を附議し、江橋幹事より詳細なる説明あり、全員異議なく可決した。續いて事務研究会に移り、小泉屬より縣提出の指示事項、注意事項及び一月、二月三分各種統計報告表等につき詳細なる指示、注意あり、熱心に研究する處あつて午後一時閉會した。當日の出席

鹿島郡支部總會

鹿島郡支部では三月一日檢閲講評終了後支部總會を開催し昭和十四年度鹿島郡支部歳入歳出豫算を議決した。尙昭和十三年度支部事業として左記郡内優良主任及調査員を表彰した。

- (夏海)大貫寛一、(大谷)川澄健夫、(沼前)川崎卯之吉、(巴)富田順家、(徳宿)飯島啓次、(諏訪)方波見豊太郎、(鉾田)崎山茂、(新宮)井川乙酉、(上島)根崎一平、(白鳥)人見彌範、(大同)小野瀬源一、(中野)堺田嘉十、(豊郷)立原銀、(波野)小田倉彦一、(豊津)野口雄亮、(鹿島)武藤基助、(高松)根本得一郎、(息栖)山中吉平、(輕野)山本彦作、(若松)菅崎岩吉、(矢田部)安藤彌太郎、(波崎)宮内廣次

結城郡支部統計事務研究会

結城郡町村長會第四支部に於ける統計事務研究会は二月七日結城郡水海道町役場に於て開催、縣より大月統計課

長、平松屬、小泉屬が出席した。午前十時四十分開會、塚田水海道町長の挨拶に續いて大月統計課長より統計の重要性につき一場の訓話ありて後、縣提出の指示、注意事項及二月、三月の統計報告表につき小泉屬より詳細なる

那珂湊反射爐由來

表紙畫の解説

泰平の眠りを覺ます蒸汽船
たつた四隻で夜も眠むれず

徳川齊昭公は夙にその來るべきものを豫知し既に二十年前に鑄造の青銅製太極砲七十四門を幕府へ献上し早速海防に備へさせた。しかるに當時日本は和蘭と交易してゐた爲銅が海外に輸出されること非常な量となり、其の上、海防の急は日に迫つて國中の諸藩が銅製の太極砲を鑄造するに至つたので銅材の需要はますます増加し、従つて其の價格も大いに騰貴、砲材なく銅の大砲も殆んど造ることが出来なくなつてし

説明があり、熱心に研究する處あつて午後二時散會した。出席者左の通り

△縣、大月統計課長、平松屬、小泉屬△町村、塚田水海道町長、水海道町小島書記、豊岡村中島書記、大生村廣瀬書記、大花羽村石塚助役、菅原村小林書記、三妻村吉川書記

まつた。尙又鑛に幕府に献上せる太極砲は白砲であつてアメリカの砲身の長いカノン砲の前には何等威力なきを知り、茲に於て烈公は何うしても反射爐を設けて鐵を熔かし外國の大砲に匹敵するものを鑄造しなければならぬと思ひ立ち藤田東湖の紹介で南部藩士大島高任、三春藩士熊田宗弘、それに薩摩藩士の竹下矩方等を招聘して之の事に當らしめ、漸く五年の月日を経て苦心慘澹の結果那珂湊吾妻臺に二基の大反射爐を完成した。處が突如元治甲子の役で此の地は兵火の巷と化し遂に灰燼したるもので、今は其の痕跡を留め得ないが湊商業學校教諭關一氏の研究に依つて略ぼ原型に近いものを考證、同校庭に建設されたものが即ち之れである。

統計事務の検閲

大月統計課長から講評 改善事項について要望

本縣訓令第三十八號に依る昭和十三年度統計事務検閲は去月二十二日より水戸市、東茨城郡及び那珂郡は縣廳分廳舍會議室に於て、他各郡は統計課員夫々出張の上何れも三日乃至四日間の日程を以て行はれたが、各種事務檢閲に見受けられる不備、欠点の摘發的態度に陥らざる事に注意し、終始指導的態度を以てした事は町村係員に好感を抱かせ來年度事務向上に資する所あるものと期待される。尙例年通り最終日は各郡共大月統計課長の講評があつたが、その概要は大體次の通りである

つたが、當一部町村に於て完全の域に達せざるものあるは甚だ遺憾とする所である。時局多端、杜撰を改め正確にして實用に適する統計の要求益々切實なるものある折柄各町村に於ては努力一番細則を完全に實施し正確なる統計資料の蒐集に邁進せられ度い。

次に視察事項個々に就て昭和十四年度に於て必らず改善せられ度い事項は

- 一、農林統計
調査に當り其の基礎となる可き調査原簿の整備を完全にせられ度い。殊に作付反別調査原簿の加除訂正に不充分の向があつたが、右原簿は常に現地と一致せしめ置く可きものであるから移動のあつた場合は其の都度必らず訂正せしめられ度い。調査小票に於ては欄外の記入洩れ、麥の作柄等位、或ひは桑の種類及び仕立方の記入に不充分のものがあつたが春季調査員會に於て充分注意して置かれ度い。
- 集計表は作付反別合計欄を記入しないものが非常に多い。之れはその調査區に於ける

る原簿面反別と對照し調査反別に誤りありや否やを吟味する爲であるから必らず計上せしめられ度い。一反歩收穫高決定は苟も一町、一村の作物收穫高算出の基礎となるのであるから形式的な決定は極力避けなければならぬ。必らず村長、主任出席の下に調査員會を開催慎重に合議決定せられ度い。

- 一、學事統計 甲號表に於ては各町村共該して誤算、調査洩れ等が多い様であるから小學校との連絡を密にして不備なからしめんことを期し度い。
- 二、人口統計 動態票の進達著しく遅延するもの二三あるが、全票は縣に於て取纏めの上内閣統計局へ其儘進達するものであるから内容に不備のない様又期限に遅れずる様充分注意せられ度い。
- 三、調査員手當 縣の平均は統計費十三圓米生産五圓となつて居るから少なくとも右程度に迄引上げられ度い。

一、事項法 未整理のものがあるが町村勢を知る唯一の資料であるから指定せられた期限迄に必らず整理せられ度い。

一、統計思想の普及 吾々の從事する統計調査は一般町村民の援助なくしては到底正確を期し得られない。従つて將來に於ては國民全体が調査に参加すると云ふ組織にならう。斯うした建前から一般市町村民の統計に對する認識を深めることは重要であり又吾々の義務である。機會ある節に何等かの方法を以て普及に努力せられ度い。



讀者の領分

新米公定價格

鹿島郡白鳥村 飯岡對馬

最近の正米相場は各地とも最高價額線を彷彿してゐるのであるから若し最高價格を更に引上げるとすれば一般米價は忽ち引上げ線まで昂騰する必然性があり、こゝに新米價格決定に對する困難な事情がある。

いふまでもなく物價統制は時局に對する重大政策であつて隣時も閉却することの出来ない對策である。物價統制の目的は國民生活の安定と生産費低下による輸出の促進に重点の置かるべきは當然であるが最近國內商品殊に穀物類の騰貴の著しいことは決して着過することの出来ない事實である。

これは配給組織の不完備や戦地輸送等から來るにもよらうが従來食料品に對する統制が不徹底であつたがため、

國民生活に對する脅威は益々加重するのみである。かくの如き情勢は寸時も放置することを許されない。物價政策を徹底せしむるとともに米價政策もこれに順應して善處すべきは當然である。

然しながらこゝに考慮せねばならぬことは戦時下に於ける農業生産力の維持及び増進策であつて肥料、勞賃等の昂騰せる場合に米價のみ引下ぐることには到底許さざることである。従つて米價決定に當つてはこれ等の事情は十分考慮せねばならぬのは言を俟たない。農林省當局はこれ等の事情を參酌して最低米價の引上げはやむを得ぬといふ意向を洩らしてゐるが最近の事情は最低米價は殆ど問題とならず、たゞ最高價格だけが標準となる實情であるから、たとひ最低米價を引上げたとしてもこれだけでは到底農業生産力の増進を刺戟することは出来まい。要は最高米價を如何に決定するかにあるが、これは法規の活用を必要とし、一方に物價統制の徹底化の大方針に副ふとすれば、他方に於て農業増産による生産費引下等その抑制方針に拮抗すべき對策を講じなければならぬのであつて米價決定に對しては飽くまでその準備が必要なのである。



短歌

丹 四 郎 選

『初春雜詠』『芽』

(賞)

新治郡高濱町東田中 木口 學
積み上げて納屋ぬち狭し夜をつぎて軍用吹織上げにけり
みちのくは雪深きかも今朝着きし上り列車の屋根は眞白し

結城郡西豊田村

古橋 重次

二荒は遠く霞みて好き日なりうからと野邊に駒を駈けらす
天の戸を光豊かに流れゆく雲をし見れば春の氣配す
元日の朝は早く火を焚きて父と親しく言葉を交す

(舊正月來る)

新治郡藤澤村

愛村 耕夫

垣越へて鶏のあさる脊戸畑に忘れし頃を薑芽ふきぬ
暖かき春日のてりに芋床の芋の芽あかく簇り萌えぬ
老の身のたのしみにして芍薬の芽立ち圍みて竹さしにけり



前田 猶 春選

『淺春雜詠』

○ 新治郡高濱町 木口 學
春晝の日深くあたる疊かな

○

筑波郡飯沼村

篠崎 良雄

梅が香や我が顔うつる塗り机

○

新治郡藤澤村

吉沼 愛村

針供養年ごと違ふ顔若し

○

東茨城郡堅倉村

井坂 夢悠

嫁迎ふ灯のあかくと春の宵

○

筑波郡久賀村

幸田 芳春

風糸纏れ解く子に夕日かな

稻敷郡生板村

關野 貴

日暮まで麥踏み居れば吾足の足袋を透して冷えて來るなり

東茨城郡堅倉村

井坂 夢悠

征きし夫の無事を祈りて拜殿に供へ結びし一束の髪

行方郡武田村

境 勇

寒風に吹きさらさるる川柳もおのづ勢へる芽を生きにけり

稻敷郡生板村

關野 幽村

冬山は靜けく寂びし薪を割る音のかすかに響き消につつ

水戸市袴塚町

大高 靜香

朝日かけ輝き渡る目路遠く並ぶ山々かすみたりけり

行方郡延方村

黒澤 惠三郎

川柳の芽ぶける下に舟つけて釣りする人の動くともせず

次回課題

『春雜詠』『事變歌』

十首以内

○ 行方郡大和村 内田 六統生

利根川に春の朝雲映りけり

○ 北相馬郡文間村 大野 松雨

春淺く椽に蘭の葉洗ひけり

○ 多賀郡助川町 小室 小波

雪消えて我が世とばかり歌ふ鳥

○ 行方郡武田村 境 谿水

凱旋のつはもの迎ふ梅日和

○ 新治郡高濱町 木村 筑峰

芽柳に水かゝりたる投網かな

○ 那珂郡柳河村 木内 紅楓

夕風や麥ふむ人の頬冠り

○ 鹿島郡高松村 平山 二調

梅咲くや朝からぬかる田舎みち

○ 同 豊郷村 石津 調六郎

探梅の凍土つきて下駄重し

○ 稻敷郡君原村 小松澤 霞翠
早春の水音和らぐ寛かな

○ 水戸市袴塚 大高 静香
夕煙に春浅き風渡りけり

○ 新治郡志土庫村 山口 義道
木々芽ぐむ草々芽ぐむ野山かな

○ 行方郡武田村 塙 草風
ヴァイオリンとピアノと鳴れり花の窓

○ 同 鳥次 ゆた香
観梅や戦塵遠く離れ来て

○ 多賀郡日立町 福地 宣
校庭の老梅花を開きけり

○ 行方郡延方村 黒須 一雄
歸還兵に故郷の山河春浅き

秀逸

筑波郡久賀村上壹場 關根 菖月

(賞)
早春の白雪かつく遠嶺かな
早春の沼風うけて築つくり

早春の日あたる納屋に俵編む
春の猫船に飼はれて鳴きほそる

選者吟

修善寺温泉

猶 春

春曉の夢に奏づる瀬音かな

同
弦歌遠し湯槽にねむる年男

次回俳句募集

題 『春季雜詠』

締切 五月五日厳守
秀逸 粗賞を呈す



柳川

山中 緋郎選

『梅』

梅を褒めながら行商荷を擴げ 新治郡高濱町 木口 學

観梅へ老人同志久し振り 鹿島郡豊郷村 石津 調六朗

尊くも見る観梅の白衣兵 行方郡武田村 鳥次 とり坊

兄さんの慰問袋へ梅の花 新治郡高濱町 木村 都郎

梅咲いた話し丸刈寒く居る 水戸市袴塚 大高 静香

梅咲いて庭の手入れを思ひ立ち 行方郡大和村 横山 五郎

観梅の出店ほこりの中にあり 行方郡延方村 黒須 一雅

鉢の梅咲いて子供をあぶながり 那珂郡柳河村 木内 紅楓

東茨城郡堅倉村 井坂 夢悠
戦線の便りへ梅のことも添へ

次號課題 『農村風景』

切 五月一日 宛名 茨城縣廳統計協會

寄贈圖書

- 統計時報 第八十七號 内閣統計局
- 宮崎縣統計書 宮崎縣
- 日向の展望 昭和十二年 トウケイ 八號 全
- 統計の山形 第一號 鳥取縣統計協會
- 統計時報 第一號 山形縣統計協會
- 昭和十三年麥統計表 秋田縣統計協會
- 岩手の統計 一月號 農林大臣官房統計課
- 稅務統計書 東京稅務監督局
- 商工省統計書 東京大臣官房統計課
- 農家調査統計書 山口縣
- 第五十七回大日本帝國統計年鑑昭和十三年版 内閣統計局
- 浪華の鏡 第二號 大阪府統計協會
- 北海道統計 第六十九號 北海道統計協會
- 調査月報 第十卷第一號 朝鮮總督府
- いしずゑ 二月號 福岡縣統計協會
- 統計時報 第八十八號 千葉縣統計協會

茨城統計と

廣告の効果

『茨城統計』は縣下三百七十八ヶ市町村及び各市町村の統計調査員約四千名は勿論縣下各種團體、會社工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

◆本誌の廣告料金は左の通りです

特別(一頁(表紙表裏)) 金拾五圓
 (半頁(同)) 金八圓
 普通(半頁) 金四圓
 (四分ノ一) 金貳圓

▼同一廣告を引續き二回以上のときはは一割五分、五回以上のときは二割の割引をします。

▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます

▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳内
 茨城縣統計協會

編輯後記

★ 紀元の佳節に統計功勞者が農林、商工兩大臣や、本縣知事、本統計協會總裁からそれら、選奨、表彰され、多年統計事務の向上發展に努めた功績が報いられた事は御同慶に堪へない。本縣の統計事務が他府縣に比して傑出してゐるのは、斯うした人々の不斷の精進勞苦に依るもので、選奨表彰された人達の光榮ばかりでなく、本縣統計界の誇りといふべきである。今年此の光光に浴しなかつた統計主任や統計調査員の中にも更に多くの功勞者が陰れてゐる事を知つてゐる。どうか各位が一層奮勵他日を期さん事をお願いする。

★ 本協會も此の程吉永總裁、大月副會長が新任し、陣容を新たにすると共に、川崎前會長が顧問として多年の經驗、圓熟した卓見によつて指導される事になり、今後の飛躍が期待されてゐる。希くは各位も折角先進縣として認められた本縣統計界の名譽の爲に協力し、常に全國首位の成績を収め得

る様心掛けられん事を。

★ 本誌には吉永總裁、大月副會長新任の御挨拶、統計功勞者の選奨表彰とその感想、本協會總會の内容等記事が非常に輯載したので讀者各位から寄稿された玉稿を割愛しなければならぬ事情になつた。お骨折を無にしたい譯ではなく、何れ五月號に掲載したいと思つて居る点を御諒承下さい。いよ、春季調査の多忙な時になつた。各位の活躍を期待すると共に益々御健勝の程を祈つて擲筆する。—加藤敬愛—

昭和十四年三月十三日印刷
 昭和十四年三月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳
 茨城縣統計協會内

發行兼編輯 郡 司 常 成
 兼印刷人

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
 印刷所 柴 印 刷 所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内
 發行所 茨城縣統計協會